

まちづくり戦略（第2期豊橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略）に係る評価について

「第6次豊橋市総合計画」において、人口減少対策を重点的・戦略的に進める「まちづくり戦略」を定め、将来に向かって「人口減少に歯止め」をかけるため、以下の4つの戦略で、さまざまな施策を実施しています。

- 1 活力みなぎる『しごとづくり』
- 2 選ばれ集う『ひとの流れづくり』
- 3 笑顔あふれる『子育て・教育環境づくり』
- 4 持続可能で暮らしやすい『都市空間づくり』

1. 令和3年度の主な取り組み並びに数値目標及び重要業績評価指標（KPI）に対する分析別紙のとおり

「**太枠**」すすんでいない取り組みや
「**下線部**」太枠に関係する市の取り組み
市民参画により取り組みを推進できる項目

《別紙の見方》

1 活力みなぎる『しごとづくり』

地域の方を結集し、地域産業の活性化に向け、魅力的な働く場の創出や新たな投資を生み出す好循環を確立します。

1. 令和3年度の主な取り組み

(1) 人材力の強化と事業承継への支援

- ・先端的な農業技術を獲得する人材を確保・育成するため、農業者を対象とした先端農業を習得できる研修などに助成した。
- ・認定新規就農者の就業継続を支援するための資金を交付するとともに、アフターコロナにおける青年等就農計画の達成に向けた設備投資を支援した。また、担い手の資格取得や後継者の就業に伴う就業環境の拡大等を支援した。
- ・障がい者が抱える農業の形を創出するため、取組を促して課題の検討をするとともに、意見交換会を開催し、農業関係者と福祉関係者の相互理解を促した。
- ・学生たちの視野や活動の幅を広げ、本市への愛着を育むため、大学生・高校生との交流スペース「グアラボ」を運営し、社会人との交流イベントを開催するなど学生の創造的な活動を支援した。
- ・東三河地域で開催される人材育成研修などに関するポータルサイトの運営、若手企業人材の交流会の開催などを支援した。

(2) 新ビジネスの創出と経営革新

- ・地域経済を推進し、農産物産物の魅力を高めるため、道の駅「とよはし」にてイベントや農産物加工品の開発支援セミナーなどを開催した。
- ・農業者の視覚技術の継承や経営継承の促進を図るため、先進的農業技術継承推進事業実施地域パワーアップ計画に合わせた取り組みを行った。
- ・最先端技術をもつ若手農業者の取り組みに対する支援を図った。
- ・産学官連携及び市庁舎・データセンター・観光施設との連携を推進した。
- ・働き盛り世代の働きやすさを高めるため、

(3) 産業の魅力発信と誘致

- ・企業の進出促進と流出防止を図るため、市内や近隣市を中心とした企業訪問や立地企業情報交換会などを実施し、企業誘致活動を進めたほか、「新しい働き方」に対応する都市部の企業の進出を促すため、サテライトオフィスの設置への支援を行った。
- ・中小企業の人材不足解消のため、多様な人材の活用につながるセミナーの開催や情報発信を促進するなど、雇用の促進と定着に向けた支援を実施した。
- ・女性や若者の市内企業への就業を促すため、学生を対象とした合同企業説明会や面接体験会などを行い、若者と企業の両立の場を創出したほか、女性の雇用促進に必要な環境整備を支援した。
- ・三河産物協会による新たなインセンティブ制度の実施などを進めて、完成輸入自動車台数・金額ともに29年連続して全国1位を維持した。
- ・豊橋東インターチェンジ工業用地の造成に伴い、企業活動を行う上で必要な周辺のインフラ整備を進めた。

2. 数値目標及び重要業績評価指標（KPI）に対する分析

数値目標	基準値 (R1)	参考値 (R2)	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7)
新規創業者数（若手）	972人	1,167人	1,479人					2,400人
女性創業者数	50,999人	49,416人	50,928人					57,000人

・新規創業者数（累計）は1,479人となり、令和2年度の1,167人と比べて26.7ポイント増加した。単年度の新規創業者数は年々増加しており、特に令和2年度から令和3年度にかけては61ポイント増加している。近年、行政や金融機関においても創業に対する支援体制が充実してきており、世間の認知度や創業に対する関心も高まっており、新規創業者数の増加はそれらが影響していると考えられる。

・女性創業者数は50,928人となり、令和2年度の49,416人から1.2ポイント増加したものの、基準値よりも低い状況となっている。年代別で見ると、男女ともに44歳以下ではほぼすべての年代で減少しており、比較的年若い世代での減少が顕著である。また、男女別・年代別では、20歳から24歳以外の年代はすべて男性の方が多くなっており、特に30歳以上ではその傾向が顕著である。25代・30代の創出促進も多く、中小企業では人材の確保が難しい状況が考えられる。

左側
令和3年度に実施したことを記載しています。

重要業績評価指標（KPI）

重要業績評価指標（KPI）	目標値 (R7)
就職支援を行った若手者数	1,900人
新たなビジネスモデル創出に関する事業への参加者数	15,000人
産業用地における立地企業数	60社

・就職支援を行った若手者数は、令和2年度の618人から18ポイント減少し、506人となった。その要因としては、大学生向け合同企業説明会が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で予定していた6回中、2回が中止となったほか、学生の帰郷促進の取組が実施されていることが影響していると考えられる。

・新たなビジネスモデル創出に関する事業への参加者数は令和2年度の9,954人から558人減少し、9,396人となった。要因としては、コロナ禍でイベント等の中止や参加人数制限の厳格化などが考えられる。対面形式とオンライン形式のハイブリッド方式での開催など、参加者への柔軟な対応を引き続き進めるとともに、さらなる普及促進を進める必要がある。

・産業用地における立地企業数は、令和2年度の47社から増加している。これは、三河地区工業用地が造成中で引き渡しができなかったことが要因となっている。造成工事の完了とともに契約企業への引き渡しを進めていく必要がある。

「**下線部**」太枠に関係する分析

2. 特にご意見をいただきたいこと

(1) 数値目標やKPIに対して、市民目線による分析や評価

(2) すすんでいない取り組みや市民参画により取り組みを推進できる項目（太枠）に対して、取り組みをすすめるためのご意見